

令和元年度 大垣市教育振興基本方針評価委員会 第2回会議録

- 1 **と き** 令和元年7月22日（月） 15:00～16:30
- 2 **と ころ** 大垣市役所本庁舎2階 第1会議室
- 3 **出席者** 三宅治委員長、長谷川哲也副委員長、井上瞳委員、田村弘司委員、
加藤栄二委員、三代広子委員、川合麻美委員、土川達也委員
- 4 **事務局** 山本教育長、守屋事務局長、山下庶務課長、渡邊学校教育課長、
石橋教育総合研究所長、堀社会教育スポーツ課長、
中井文化振興課長、大谷上石津地域教育事務所長、
加藤墨俣地域教育事務所長、中山南部北部学校給食センター所長、
安田図書館長、三輪まちづくり推進課長、杉田市民活動推進課長、
浅井子育て支援課長、吉田子育て総合支援センター所長
吉安庶務課主幹、大橋庶務課主査
- 5 **傍聴者** なし
- 6 **議 題**
 - (1) 平成30年度大垣市教育振興基本方針の施策の実施状況について
 - ① 図書館分野
 - ② 生涯スポーツ分野
 - ③ 芸術文化・文化財分野
 - (2) その他

7 会議録

- (1) 平成30年度大垣市教育振興基本方針の施策の実施状況について
資料No.2に基づき、庶務課長が前回会議の評価について再確認。
以下、質疑応答の概要。

発言者	発言概要
委員	学校教育分野「⑤教員の指導力向上と多忙化の軽減」の総合評価がC評価となっているが、指標の1「市主催の研修会への参加人数」については、平成27年度から働き方改革の一環として研修会を意図的に削減しているため、D評価となってしまっている。この指標を基に総合評価をCとするのはいかがなものか。
委員	自己評価は目標に対する実績の割合でA～Dとすることが決まっているため変更は難しいが、研修会を意図的に減らした説明が入れば、総合評価はBとしても良いと思う。
委員	世の中の流れが働き方改革へ向かっている中で、単純に評価することは課題がある。
委員	総合評価をCからBにすることについて、平成27年は、自己評価がBとAで総合評価Bになっているのに、平成30年度が、自己評価DとAで総合評価Bとすることは疑問が生じるため、自己評価Dがあっても総合評価をBとする数値的根拠を示してはどうか。
委員長	数値的根拠を示して、総合評価をCからBとすることによってよい。
委員一同	はい。
委員	平成31年度の目標値は変更できないことでよい。
山本 教育長	はい。平成31年度も研修会への参加人数は増えないため、今年度お認めいただいたような形で説明させていただきたい。

① 図書館分野

資料No.2に基づき、図書館長が説明。
以下、質疑応答の概要。

発言者	発言概要
委員	図書館の利用人数を教えてください。
安田 図書館長	平成30年度の貸出人数は15万9千人。

発言者	発言概要
委員	市民アンケートの中で、図書館を利用しない理由の選択肢には、本や雑誌のことについてしかない。次回のアンケートまでは同じ内容で調査すると思うが、その次以降は、図書館をどのような理由で利用するか、「情報の収集」や「講座の参加」などについて含めることで、利用しない理由がもう少しクリアにできるのではないかな。
委員	図書館を利用しない理由に「読みたい本がないから」という理由はないかな。直木賞など賞を取った本などは、何冊購入しているかな。
安田 図書館長	3館合わせて、最大5冊までを基準としている。
委員	アンケートの回答項目にそういった選択肢も加えてはどうかということ。
委員	本の購入も本屋に行かず、インターネットで購入する時代だが、本の郵送サービスの事例はあるかな。
安田 図書館長	有料で郵送サービスを実施している自治体はある。本市では「予約図書配本サービス」を実施しており、昨年の実績は9万5千冊である。
委員	レファレンスの数が増えた要因は。
安田 図書館長	毎年、「大河ドラマ」や学校関係の宿題の内容によって変動する。
委員	図書館を利用する人の割合が、平成29年度から平成30年度でかなり減っていると思うが、その要因は。
安田 図書館長	平成29年度2か月間、平成30年度3か月間行った、大垣図書館の空調改修工事の影響と思われる。

② 生涯スポーツ分野

資料No.2に基づき、堀社会教育スポーツ課長が説明。

以下、質疑応答の概要。

発言者	発言概要
委員	スポーツ分野は支える組織がすごく充実していると思うが。
委員	以前から、(公財)大垣体育連盟が少年団活動などしっかりやっていたでている。
委員	中学校の部活動は限界があると思うが、もっとやりたい子どももいると思う。今後の部活動のあり方はどのように考えているか。

発言者	発言概要
山本 教育長	働き方改革のガイドラインの中で、土日を含めた週休2日や時間制限もあり、それに沿ってやっている。子どもたちや保護者からはやっていただきたいという声もある。全国的に現在の部活動のあり方は無理があり課題となっている。市の方向性としては、専門的な指導者や保護者が中心となって部活に代わる活動を模索しながら進めていかざるを得ないと思っている。
委員	現在、社会人指導者も入れて活動していると思うが、どの程度いるのか。
山本 教育長	市全体で105人いるが、活動ごとに全てに入ってもらっているわけではない。
委員	市では、全ての小学校に水泳の講師を2回派遣してもらっている。その際には、教員も参加し基本的な泳ぎ方など指導を受けており助かっている。社会人指導者も助かっている。
委員	「学校における体育スポーツの充実」の目標の中で、体力調査結果の8種目合計点が指標になっているが、事業内容と繋がっているか分からない。 次の評価指標を決める際には検討いただきたい。

③ 芸術文化・文化財分野

資料No.2に基づき、中井文化振興課長が説明。

以下、質疑応答の概要。

発言者	発言概要
委員	市の文化財を活かしきる、県の関ヶ原の施設と連携するなど新しい事業を実施するなどして、「芸術文化に取り組む市民の割合」を上げていただきたい。 I A M A S は全国的に非常にレベルの高い芸術大学だが、あまり市民に認知されていないのがもったいない。 いま、全国の芸術祭はすごく人が集まるため、I A M A S のような現代美術と組むのも方法の1つである。
中井 文化振興課長	文化事業団と I A M A S は、アートギャラリーで美術と音楽とコラボの取り組みを始めている。これからもっと P R していきたい。

発言者	発言概要
委員	芸術文化活動はどのような内容を想定しているか。アンケートには具体例があげられているか。
中井 文化振興課長	具体例はあげていない。俳句なども含んでいる想定している。
委員	芸術文化活動というのを、具体的に聞くような質問にすると、率も上がると思う。継続的な調査になるため、変更は次の評価で検討していただきたい。
委員	「芸術文化関係施設利用者数」と「芸術文化施設を利用する人の割合」は、聞いていることは同じと思われるため、次の指標作成で検討していただきたい。

(2) その他

発言者	発言概要
委員	図書館分野では、読書離れの影響で、指標値を上げていくのは難しいと思われる。新しい計画の目標の設定は、全て右肩上がりとすることについてはどう考えているか。
安田 図書館長	現在検討中である。
委員	指標の単位が人数のものは、全体の人口減少もあるので、加味する必要がある。
委員	策定委員会の中で、よく協議してもらいたい。

閉会